

式 辞

ようやく秋の訪れが感じられる10月の佳き日に、令和8年度愛媛県立北条清新高等学校通信制課程 後期入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。本校では、先日、前期卒業式が行われ、25名の卒業生を送り出しました。これまで一緒に学んできた皆さんを送り出すことに、寂しさを感じていたところですが、本日、こうして56名の皆さんを新たにお迎えすることができ、大変うれしく思っています。

新入生の皆さんの中には、これから始まる通信制での高校生活に、期待を膨らませている人もいれば、これからどのような生活になるのか、不安を感じている人もいることでしょう。

これまでの学校生活や社会生活の中で、人間関係に悩んだり、健康面や学習面で不安を抱えたり、思うようにいかない経験をしてきた人もいるかもしれません。また、そうした経験を乗り越え、あるいは今まさに乗り越えようとして、今日この日を迎えた人もいることと思います。

人生はよく山登りに例えられます。

同じ山の頂上を目指していても、歩く道は一つではありません。険しい道を選ぶ人もいれば、時間をかけてゆっくり登る人もいます。途中で立ち止まることもあれば、少し戻って別の道を選ぶこともあります。大切なのは、人と同じ速さで進むことはありません。自分に合った道を見つけ、自分の歩幅で、一歩ずつ前に進んでいくことです。通信制課程は、まさにそのような学びを大切にしている学校です。レポートに取り組み、スクーリングに参加し、仕事や家庭、さまざまな活動と学びを両立させながら、自分自身の目標に向かって歩んでいく。時には思うようにいかないこともあるでしょう。

しかし、その一歩一歩には、必ず意味があります。そして、皆さんには、一緒に学ぶ仲間がいます。皆さんを支える先生方がいます。そして、皆さんの歩みを温かく見守ってくださる御家族や周囲の方々がいます。本校には、長年にわたって通信制の生徒たちを支えてきた、大切な言葉があります。

「ひとりじゃないんだ、がんばろう」

この言葉は、昭和37年、本校の前身である松山東高校通信制課程で学んだ大原和寿（おおはら かずとし）さんが作詞した「通教の歌」の中にある言葉です。当時33歳だった大原さんは、自分の子どもさんが生まれたことをきっかけに、「新しい命のために胸を張れることをやってやろう」と思い立ち、通信制への入学を決意されました。大原さんは、仕事と学業を両立させながら、レポートやスクーリングに取り組みました。その歩みの中で生まれた「ひとりじゃないんだ、がんばろう」という言葉は、その後、長い年月にわたって、多くの通信制の生徒たちの心を支えてきました。

そして今年、本校は北条清新高等学校として新たな歩みを始めました。学校の名前や場所が変わっても、これまで大切にされてきたこの言葉と、その精神は、これからも本校に受け継がれていきます。皆さんも、ここからの高校生活の中で、うまくいかないことや、立ち止まりたくなることがあるかもしれません。そんなときには、頑張っている自分を、まず自分自身が認めてあげてください。

そして、周りを見てください。同じように悩みながら頑張っている仲間がいることに気付いてほしいと思います。困ったときには先生方に相談してください。誰かに支えてもらうことは、決して弱いことはありません。一人で頑張らなくていい。それぞれの道を、それぞれの歩幅で歩んでいけばいい。それが、北条清新高等学校通信制課程で、私たちが大切にしたい学びの姿です。

保護者の皆様、本日はお子様の御入学、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

私たち教職員一同、本日からお子様をお預かりし、一人一人が自分の可能性を見つけ、それぞれの目標に向かって歩みを進めていけるよう、精一杯努めてまいります。本校の教育活動に対しまして、御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん。今日から、皆さんの新しい学校生活が始まります。皆さんの可能性は無限大です。自分の歩幅で、一歩ずつ前へ。その一歩の先に、皆さんにしか見ることのできない景色がきっと待っています。

皆さんが、仲間や先生方との出会いを大切にしながら、それぞれの目標に向かって歩みを進め、豊かに成長されることを期待して、式辞といたします。

令和8年10月1日

愛媛県立北条清新高等学校長 菊池 正敏